Medical Technology News

臨床検査室新聞

２０１６年　５月
第６４号
発行元　八雲総合病院
臨床検査室

糖尿病患者さんの災害時の備え

いざという時の備えは万全ですか?災害時にまず頼りになるのは自分自身です。災害時に備え、普段から医師と対策を相談しておきましょう。

○何を準備すればいいの?

・お薬の名前：自分が使用しているお薬の名前は言えますか?名前が覚えられなくてもどのような種類のお薬かおさらいしておきましょう。

・お薬の準備：1週間分を用意しましょう。

・自分や家族の安全：家の中の安全を確認しましょう。

・緊急避難袋：3日間分用意しましょう。

・避難所の確認

・家族との連絡：安否確認の方法を相談しておきましょう。

○普段から持ち歩くとよいものは?

・インスリン療法をしている患者さん

インスリン製剤（予備も）、注射針、消毒用アルコール綿、血糖測定器一式、補食（ブドウ糖・飴）、お薬手帳、糖尿病連携手帳、保険証、緊急連絡先のメモ

・飲み薬を使用している患者さん

服用している薬（予備も）、補食（ブドウ糖・飴）、お薬手帳、糖尿病連携手帳、保険証、緊急連絡先のメモ

○震災時における糖尿病セルフケア7か条

①水分はしっかりと
②食事の量を意識する
③体重、体温、血圧、血糖値の測定
④薬物療法を中断しない
⑤感染症から身を守る
⑥軽い運動や体操をする
⑦ストレスをためない工夫をする

LOOK

手術と呼吸機能検査

手術前の患者さんから『どうして呼吸機能検査をするの?』と質問を受けることがあります。

必要の働を閉やきかまて認経の器道肺起器りし確が神肺吸気気の吸あををす。酔やに呼。無症呼が査かます。麻肉く工すは併工と検るり身筋と人まで合人こにあな全は。でしん肺で薬すの理さ後く、な前がに術酔まる管者術高困手機術能要手麻えなを患のがもて吸が大き合を悪呼あな険離よなこな場きがいの炎危の。分る働き使塞肺るらす十す

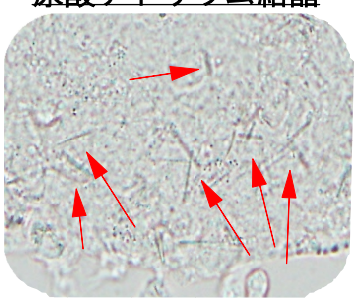
限技し大査定最検測能をただくさんにめながら患者さんたなが能い声をかけ機し掛けます。呼吸力師ています。

◇術前呼吸機能検査が必要な場合
・胸部・上腹部の手術
・長時間にわたる全身麻酔による手術
・喫煙、咳、喘鳴の既往
・70歳以上
・肺疾患
・肥満

痛風とは、血液中尿酸値の高い状態（高尿酸血症）が続くことで、尿酸が関節液中で結晶化し、この結晶を排除しようと白血球が集まり関節炎を起こす疾患です。名前の由来の一説に「風が吹いただけでも痛むから」とあるほどの強い痛み（痛風発作）が、主に足の親指の付け根の関節に起こります。痛風発作は一～二週間ほどで消失しますが、繰り返すと悪化していき、結節（コブのようなもの）ができたりすることもあります。

痛風を特定する検査の一つに関節液検査があります。正常な関節液は透明で無色～淡黄色の少しとろみがある液体で、一つの関節につき3.5mlほどの液量です。痛風の場合は、液量が増加して白血球が多く出現し、痛みの原因となる尿酸ナトリウム結晶（図中矢印）を顕微鏡下で認めます。

尿酸ナトリウム結晶



尿酸ナトリウム結晶は先端が細くなった針状の結晶で、白血球により貪食された状態で見られることがあります。この結晶は痛風以外では認められませんが、よく似た形をしたピロリン酸カルシウム結晶（棒状～長方形）があり、この結晶を認めた場合は“偽痛風”という痛風によく似た症状を呈する疾患の可能性があります。そのため、結晶を見つけることと、その結晶の種類を特定することが、痛風を鑑別する重要なポイントになります。

ほっと time

先日隣町のオニウシ公園に子どもと桜を見に行ってきました。
少し肌寒かったですが満開の桜に心がほっこりしました。

検査の基本

関節液の検査について

①必要量・・・10ml以上（最低5ml）
②検体採取容器・・シリンジ
③検査項目
顕微鏡検査（白血球数、赤血球数、尿酸ナトリウム結晶・ピロリン酸カルシウム結晶の有無）
尿酸、細菌培養
④所要時間（日数）
顕微鏡検査、尿酸　→　1時間程度
細菌培養　→　2～4日位

編集後記

オリンピックが始まります。観戦も楽しいですが、暖かくなってきたので、運動をしてみませんか。無理せず天気のいい日に歩いてみるのもいいです。家の中でラジオ体操をするのもいいですよ。好きなスポーツをして体・心をリフレッシュしましょう。